

有間皇子

群馬県立女子大学名誉教授 北川和秀

有間皇子関係年表

西暦	年号	干支	天皇	先皇	執政	事項	歳
六四〇	舒明一二	庚子	舒明		蘇我	有間皇子誕生	1
六四一	一三	辛丑			蝦夷	舒明天皇没	2
六四二	皇極元	壬寅	皇極			山背大兄王自殺	3
六四三	二	癸卯					4
六四四	三	甲辰					5
六四五	大化元	乙巳	孝徳			大化改新。難波京に遷る	6
六四六	二	丙午		皇極	中大兄		7
六四七	三	丁未					8
六四八	四	戊申					9
六四九	五	己酉				阿倍倉梯麻呂没	10
六五〇	白雉元	庚戌					11
六五一	二	辛亥					12
六五二	三	壬子					13
六五三	四	癸丑				天皇と中大兄不和	14
六五四	五	甲寅				孝徳天皇没	15
六五五	齊明元	乙卯	齊明			齊明、飛鳥板蓋宮に即位	16
六五六	二	丙辰				齊明、しきりに土木工事を行う	17
六五七	三	丁巳				有間皇子、牟婁の湯に行く	18
六五八	四	戊午				有間皇子刑死	19

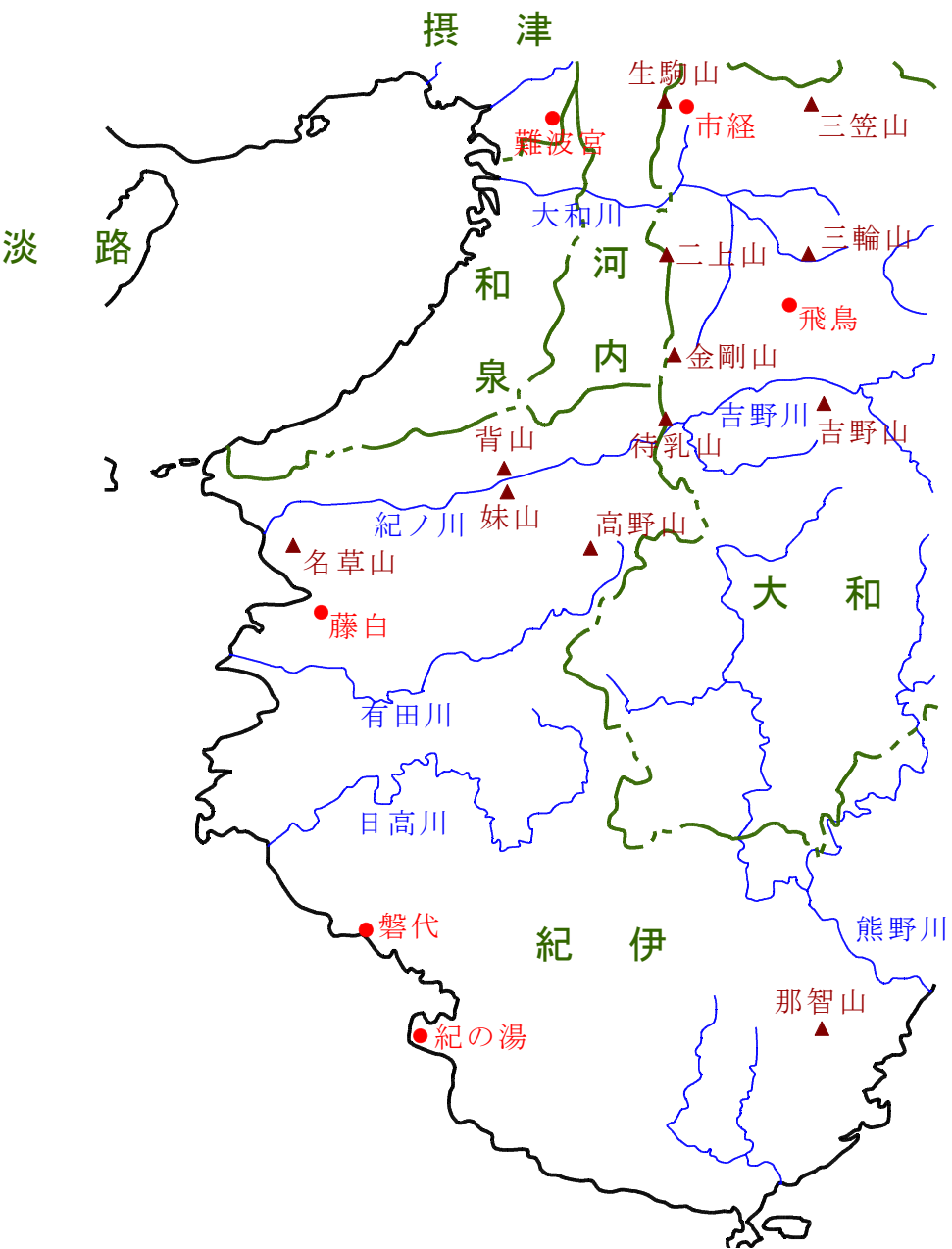
A 息長足日広額天皇の女間人皇女を立てて、皇后とす。二の妃を立つ。元の妃、阿倍倉梯麻呂大臣の女を小足媛と曰ふ。有間皇子を生めり。次の妃、蘇我山田石川麻呂大臣の女を乳娘と曰ふ。(日本書紀 大化元年(六四五)七月二日)【六歳】

B 天皇、都を難波長柄豊碕に遷す。(同 同年十二月九日)

れなむ」といふ。(同 斉明二年(六五六) 是歳)【十七歳】

I 有間皇子、性 黠くして陽 狂すと、云云。牟婁温湯に往きて、病を療むる偽して来、
国の体勢を讚めて曰はく、「纔彼の地を観るに、病自づからに蠲消りぬ」と、云云。
天皇、聞しめし悦びたまひて、往しまして 觀 さむと思欲す。

(同 同三年(六五七) 九月)【十八歳】



J 紀温湯に幸す。天皇、皇孫建王を憶 でて、愴爾み悲泣びたまふ。

(同 同四年(六五八) 十月十五日)【十九歳】

K 留守 官蘇我赤兄臣、有間皇子に語りて曰はく、「天皇の治らす政事、三つの失
有り。大きに倉庫を起てて、民 財 を積み聚むること、一つ。長く渠水を穿りて、
公 糧 を損し費すこと、二つ。舟に石を載みて、運び積みて丘にすること、三つ」と
いふ。有間皇子、乃ち赤兄が己に善しきことを知りて、欣然びて報答へて曰はく、
「吾が年始めて兵を用ゐるべき時なり」といふ。(同 同年十一月三日)

L 有間皇子、赤兄が家に向きて、楼に登りて謀る。夾膝自づからに断れぬ。是に、相
の不祥を知りて、俱に盟ひて止む。皇子帰りて宿る。是の夜半に、赤兄、物部朴井

連鮪を遣して、宮造る丁を率ゐて、有間皇子を市経の家に囲む。便ち駈使を遣して、天皇の所に奏す。(同 同年十一月五日)

M有間皇子と、守君大石・坂合部連葉・塩屋連鮒魚とを捉へて、紀温湯に送りたてまつりき。舍人新田部米麻呂、従なり。是に、皇太子、親ら有間皇子に問ひて曰はく、「何の故か謀反けむとする」とのたまふ。答へて曰さく、「天と赤兄と知らむ。吾全ら解らず」とまうす。(同 同年十一月九日)

N丹比小沢連国襲を遣して、有間皇子を藤白坂に絞らしむ。是の日に、塩屋連鮒魚・舍人新田部連米麻呂を藤白坂に斬る。……守君大石を上毛野国に、坂合部葉を尾張国に流す。(或本に云はく、有間皇子、蘇我臣赤兄・塩屋連小戈・守君大石・坂合部連葉と、短籍を取りて、謀反けむ事を卜ふ。或本に云はく、有間皇子曰はく、「先づ宮室を燔きて、五百人を以て、一日兩夜、牟婁津を邀へて、疾く船師を以て、淡路国を断らむ。牢固るが如くならしめば、其の事成し易けむ」といふ。或人諫めて曰はく、「可からじ。計る所は既に然れども、徳無し。方に今皇子、年始めて十九。未だ成人に及らず。成人に至りて、其の徳を得べし」といふ。……)

(同 同年十一月十一日)

有間皇子、自ら傷みて松が枝を結ぶ歌二首

- ① 磐代の浜松が枝を引き結び真幸くあらばまた還り見む(二・一四一)
- ② 家があれば筥に盛る飯を草枕旅にしあれば椎の葉に盛る(一四二)

《参考》

- ③ たまきはる命は知らず松が枝を結ぶ情は長くとそ思ふ(六・一〇四三) 大伴家持
- ④ 八十種の花は移ろふ常磐なる松のさ枝をわれは結ばな(二〇・四五〇一) 大伴家持

長忌寸意吉麻呂、結び松を見て哀しび咽ぶ歌二首

- ⑤ 磐代の岸の松が枝結びけむ人は帰りてまた見けむかも(一四三)
- ⑥ 磐代の野中に立てる結び松情も解けず古思ほゆ未だ詳らかならず(一四四)

- ⑦ 鳥翔成あり通ひつつ見らめども人こそ知らね松は知るらむ(一四五)

右の件の歌どもは、柩を挽く時作る所にあらずといへども、歌の意を准擬ふ。故以に挽歌の類に載す。

大宝元年辛丑、紀伊国に幸しし時、結び松を見る歌一首 柿本朝臣麻呂歌集の中に
出づ

- ⑧ 後見むと君が結べる磐代の子松がうれをまた見けむかも(一四六)